

平成 26 年度 「大阪府中学生チャレンジテスト」における 新巽中学校の結果の分析について

大阪府による「大阪府中学生チャレンジテスト」について、平成 27 年 1 月 14 日（水）に、第 1 学年と第 2 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性を担保する方策（「評定の範囲」の作成）について検証する。
- ③ 大阪府教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ④ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ⑤ 生徒一人一人が、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 1 学年、第 2 学年
- ・ 新巽中学校では、第 1 学年 98 名、第 2 学年 82 名

3 調査内容

- ① 第 1 学年で、国語、数学及び英語
第 2 学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立新異中学校**

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) **98**

平均得点 (点)

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 58.5 | 48.6 | 62.5 |
| 大阪市 | 61.8 | 52.6 | 66.9 |
| 大阪府 | 63.2 | 53.7 | 69.3 |

平均無解答率 (%)

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 7.6 | 7.5 | 7.1 |
| 大阪市 | 5.8 | 6.0 | 5.1 |
| 大阪府 | 5.4 | 5.9 | 4.9 |

結果の概要

- (国) 大阪市の結果より少し下回ったが同じような分布であった。しかし、無解答率では大阪市より高い結果であった。
- (数) 領域では図形、観点では数量や図形についての知識・理解、問題別では記述式が苦手な生徒が多い。
- (英) 平均得点は大阪府とは7点、大阪市とは4点低い。無回答率については大阪府・市とは約2点の差がある。

成果と今後取り組むべき課題

- (国) 言語についての知識・理解・技能や短答式の問題に弱い傾向がみられる。今後、授業で取り組み、無解答を減らしていくこと。
- (数) 授業では繰り返し復習した問題は正答率が大阪府と同じくらいか上回ってたので、授業の中で問題演習の時間を確保していく必要がある。
- (英) 聞くことは正答率80%を超えていたので、授業内でのリスニングを継続して取り組む。書くこと、表現することは、帯活動で英作文を取入るなど取り組む。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) **82**

平均得点 (点)

| | 国語 | 社会A | 数学 | 理科A | 英語 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校 | 53.0 | 38.7 | 39.9 | 36.0 | 42.3 |
| 大阪市 | 61.3 | 47.3 | 47.0 | 43.8 | 52.5 |
| 大阪府 | 62.9 | 48.5 | 49.4 | 45.4 | 55.0 |

平均無解答率 (%)

| | 国語 | 社会A | 数学 | 理科A | 英語 |
|-----|------|-----|------|-----|-----|
| 学校 | 10.4 | 9.2 | 12.0 | 8.0 | 6.9 |
| 大阪市 | 6.2 | 7.0 | 8.3 | 5.3 | 4.0 |
| 大阪府 | 5.3 | 6.3 | 7.5 | 4.7 | 3.8 |

結果の概要

- (国) 言語の知識がやや乏しいことが全体的な理解の低さにつながっている。
- (社) 思考・判断・表現において、選択することは可能だが記述して答えることができていない。
- (数) 計算力の低さや図形についての知識の低さが得点の低下につながっている。
- (理) 質問や文章に対する読解力の低さが解答力の低さにつながっている。
- (英) 語い力・文法の知識が定着していないため、全技能において得点できていない。

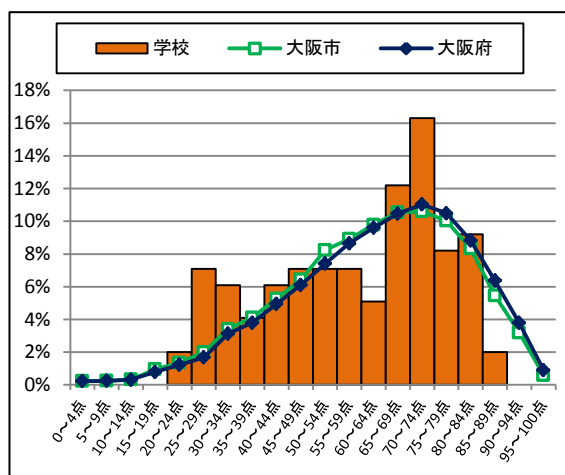
成果と今後取り組むべき課題

- (国) 語彙力の強化
- (社) 自分の考えをまとめる力の強化
- (数) 計算力の強化
- (理) 読解力の強化
- (英) 全般的に課題があるが、特に書くことに関しての能力強化

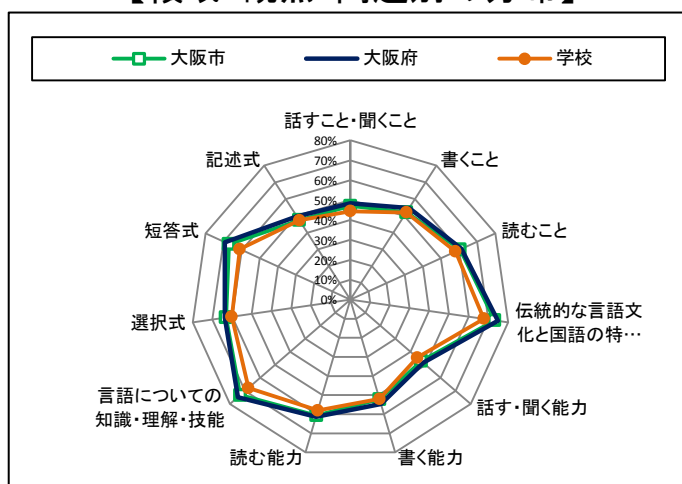
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

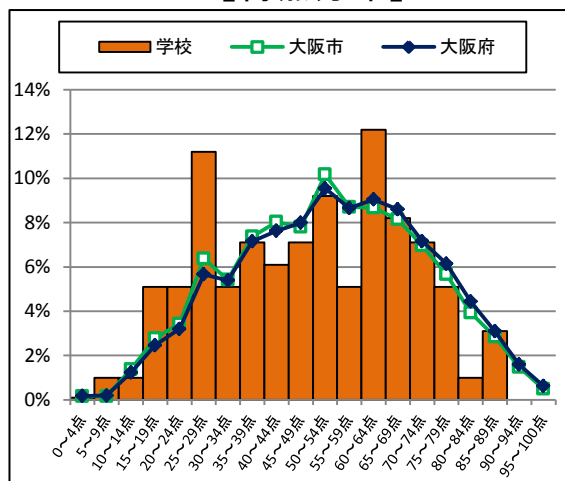


【領域・観点・問題別の分布】

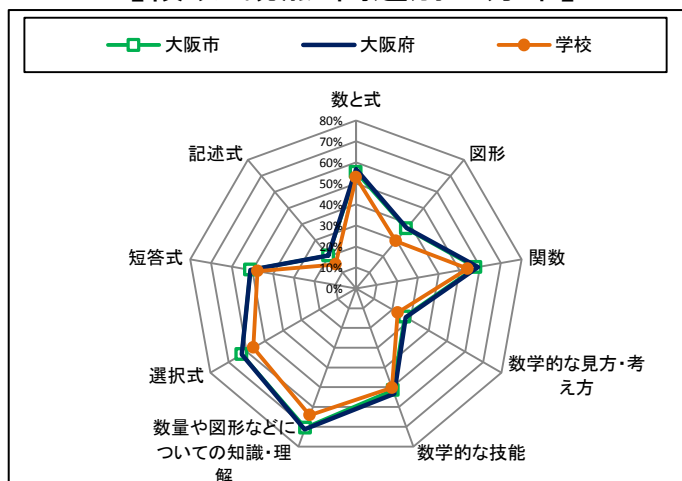


【数学】

【得点分布】

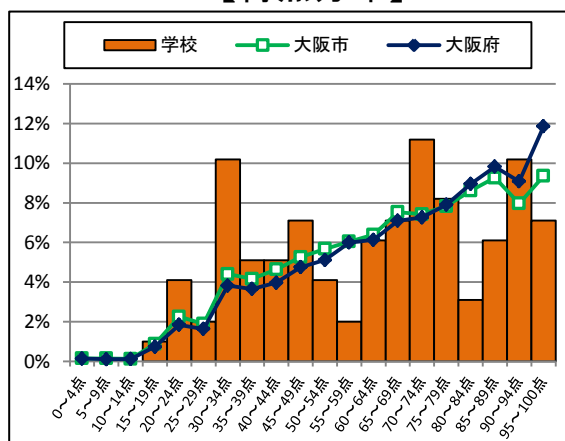


【領域・観点・問題別の分布】

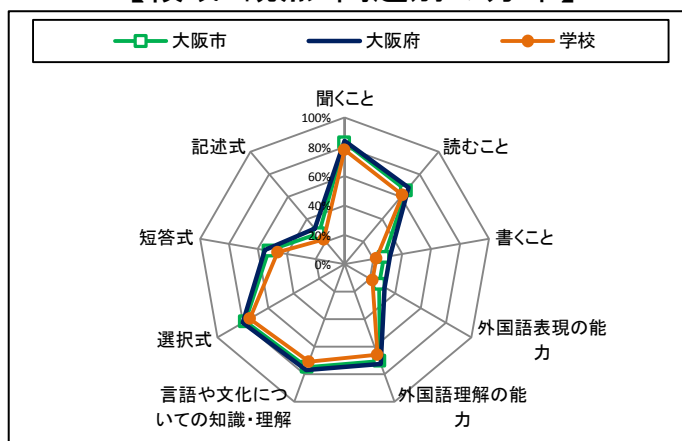


【英語】

【得点分布】



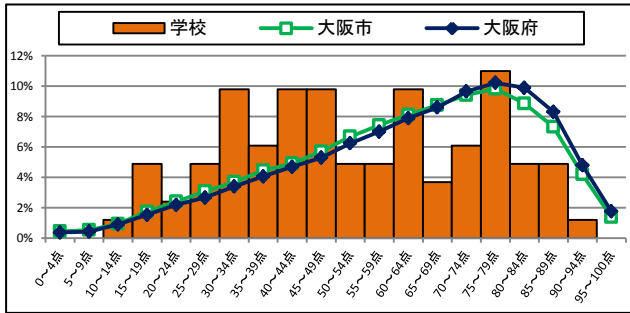
【領域・観点・問題別の分布】



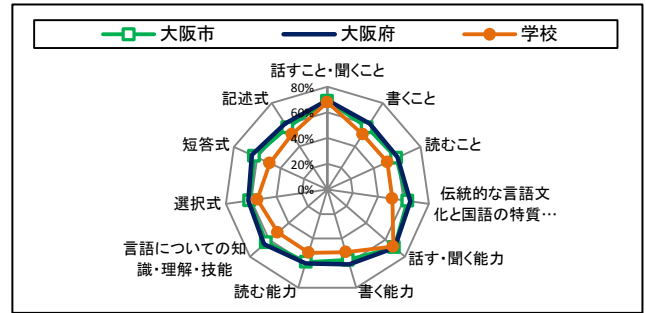
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

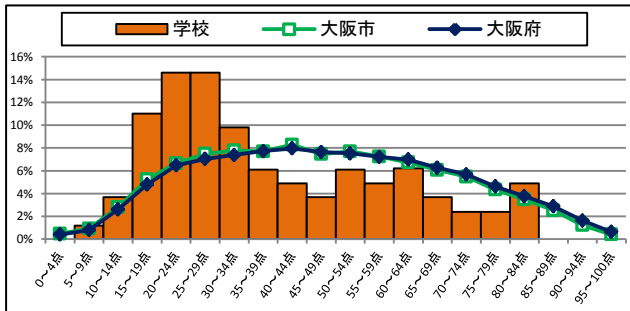


【領域・観点・問題別の分布】

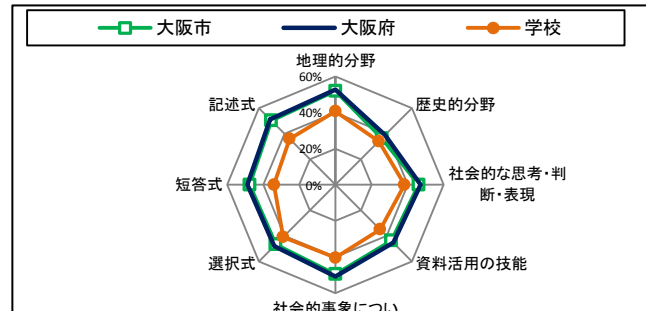


【社会A】

【得点分布】

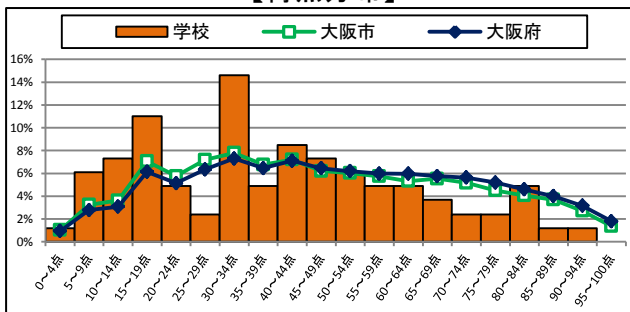


【領域・観点・問題別の分布】

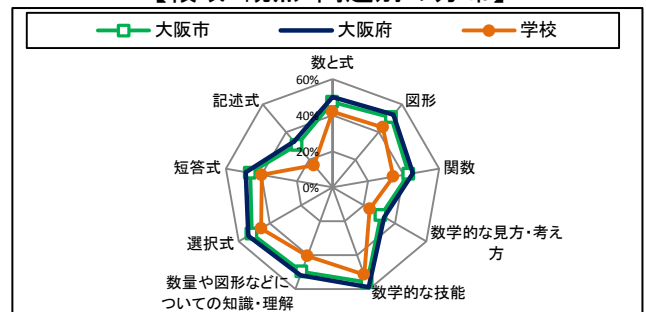


【数学】

【得点分布】

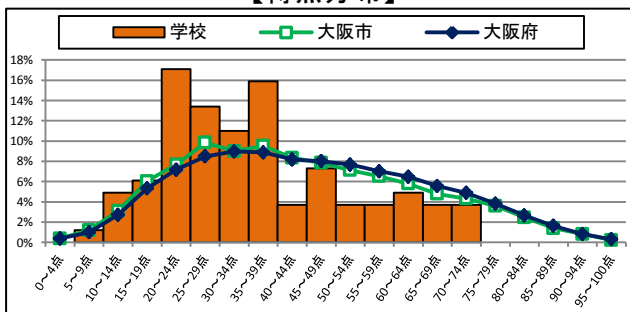


【領域・観点・問題別の分布】

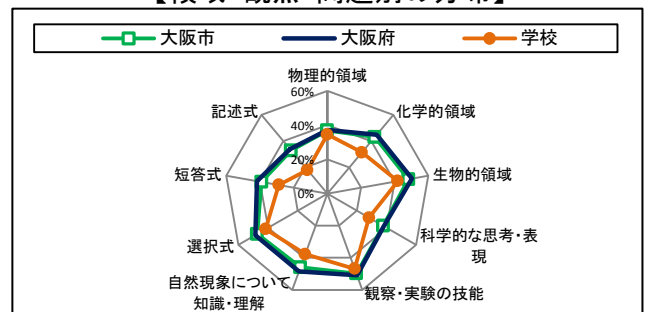


【理科A】

【得点分布】

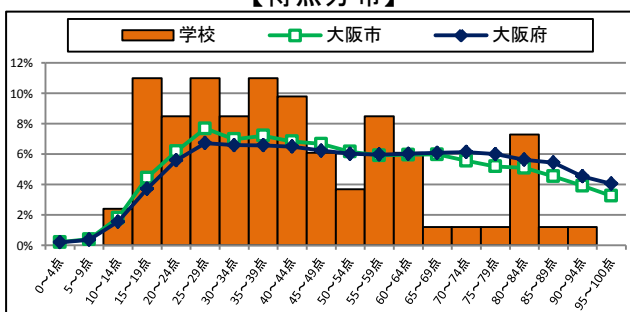


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

